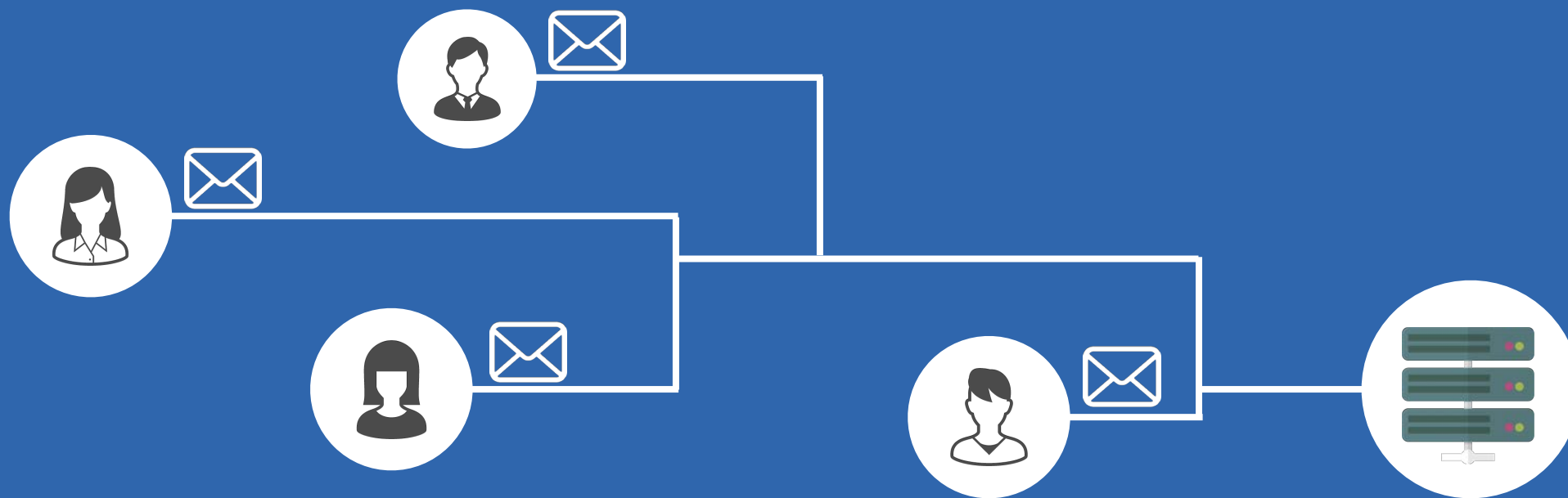


メール配信の課題と、それを解決する
メールリレーの仕組みや選び方が丸わかり！

メール到達率を高めるメールリレー完全ガイド



「開封率」や「クリック率」などの影に隠れがちですが、重要な「到達率」という指標についてご存知でしょうか。メールは誰でも簡単に送信ができますし、送れば宛先に届いて当たり前だと思っている方が多いかもしれません。しかし、大量にメールを送信するメルマガや、システムからの自動送信メールにはトラブルがつきものです。

例えば、

- ・ 大量のメールを送信する際に遅延が発生してしまう…
- ・ メールを送信していて、自社のIPアドレスやドメインがブラックリストに登録されてしまう…
- ・ 送信したメールが宛先に届かなかったり、迷惑メールフォルダに入ってしまう…
- ・ メールが届かない原因がわからず、どのように対処したら良いかわからない…

といったお悩みを抱えてはいないでしょうか？

本ホワイトペーパーは、こういった**メール配信にまつわる課題と、それを解決する「メールリレーサービス」**について解説しています。まずはメール配信を取り巻く現状と課題を整理した上で、メールリレーサービスがどのように課題解決に役立つのかをご紹介します。そして、実際にメールリレーサービスを利用したい場合に、どのようにサービスを選定したら良いのか、選ぶ際にチェックすべきポイントについても解説しています。メールリレーサービスの導入を検討するにあたって、ぜひ本ホワイトペーパーをご活用ください。

1. メール配信の現状 4

- ・コミュニケーション手段の多様化
- ・実は届けるのが難しいメール
- ・メールが届かない負のインパクト

2. メール配信の課題 8

- ・メール送信がしづらい環境
- ・「メールが届かない」というトラブル
- ・メールが届かない理由① 送り方
- ・メールが届かない理由② 送信環境
- ・メールが届かない理由③ 内容
- ・メールサーバの運用負荷
- ・メールリレーサービスで解決

3. メールリレーの基礎知識 16

- ・メールリレーとは
- ・メールリレーのメリット
- ・メールリレーの使い方

4. メールリレーの選び方 20

- ・メールリレーの種類：共有型と占有型
- ・選ぶときのポイント

5. ベアメールのご紹介 24

- ・ベアメールで実現できること
- ・ベアメールの特長
- ・導入事例・問い合わせ先

メール配信の現状

SNS・チャット・メッセージなどさまざまなツールが登場したことで、今やメールは「時代遅れのコミュニケーション手段」であると考えている方もいるかもしれません。

まずはメール配信を取り巻く状況について確認してみます。

1. メール配信の現状 -コミュニケーション手段の多様化



メールは特定個人に対し、簡単に素早くメッセージを送ることができるためコミュニケーションには欠かせないツールです。最近ではメッセージングアプリの台頭により、個人間でメールを使うことは減少してきていますが、BtoBやBtoCのビジネスシーンではオフィシャルな連絡手段としてメールを利用することが多いでしょう。

特にEコマースにおいては、会員登録・予約／購入確認・発送通知など、取引履歴・証跡を残す目的として使われておりメールは今でも顧客との重要なコミュニケーション手段となっています。

B to C

コミュニケーション手段

- ・メール
- ・電話
- ・SNS

現状

会員登録や商品購入時の確認、メルマガなど顧客へのメール配信が行われています。SNSで製品やサービスの情報を発信することも増えています。

B to B

コミュニケーション手段

- ・メール
- ・電話
- ・チャット

現状

企業間のコミュニケーションにはメールが主流。取引企業との連絡には、メッセージングアプリによるチャットも最近では増加傾向にあります。

C to C

コミュニケーション手段

- ・チャット
- ・電話
- ・SNS

現状

個人間ではメッセージングアプリによるチャットの利用が一般的になりました。FacebookやTwitterなどのSNSを介したやりとりも珍しくありません。

1. メール配信の現状 -実は届けるのが難しいメール



メールは送信すれば当然届くものだと思っている方が多いかもしれません。しかし、実はそうとも限らないのです。メールマーケティングの効果測定に使われる指標といえば、開封率やクリック率ばかりが重要視されますが、それらは「メールが顧客の手元に届く」ことが前提となっています。まず、送信したメールのうち顧客に届いた割合を示す「到達率」についても気にするべきではないでしょうか。

メールの到達率は、送信したメールのうちISPや携帯キャリア、メールプロバイダ（Gmailなどメールサービスを提供する事業者）などにブロックされたり、エラーになったりせず、送信先のメールサーバに正常にメールが届いた割合を指します。全体（1）からエラーメールになった割合を引いた数、100%からエラーメール率（バウンス率）を引いた割合で表せます。

到達率

$$1 - (\text{エラーメール数} \div \text{メール送信数}) \times 100$$

$$100 - \text{エラーメール率}$$

エラーメール率（バウンス率）

$$\text{エラーメール数} \div \text{メール送信数} \times 100$$

2020年5月に公開されたBenchmark Emailによるユーザーのメール配信調査レポート*によると、日本の平均エラー率は **2.12%**とあります。仮に10万人に対しメールを送信したら、実はそのうちの約2000人には届いていないということになります。

エラー率を気にしていない、そもそも把握できていないという場合も多いかもしれませんが、エラー率が高い状態が継続すると送信元のIPアドレスやドメインがブラックリストに登録されてしまい、今まで問題なく届いていたメールも届かなくなってしまうという事態にもなりかねません。それを防ぐために、**エラー率は3%以下に保つことが推奨されています。**

*参考：「業種別・地域別（国別）平均メール開封率レポート【2020年版】」 <https://www.benchmarkemail.com/jp/email-marketing-benchmarks/>

1. メール配信の現状 -メールが届かない負のインパクト

メルマガであれば、そもそも受信者はどのタイミングでメールが送られてくるかわからないため、メールがもし届かなくても受信者は気づきませんし、問題にはならないかもしれません。

しかし、EコマースやWebサービスにおいて、「会員登録をしたのに確認メールがこない」「予約したのに完了メールがこない」「購入したが、その後のサンクスメールも発送通知もこない」というようなことがあれば、顧客の不信を招きます。

時間が経てば届くかもしれないとわかっている間、待っている間ずっと不安になることもあるでしょうし、利用者によっては「ちゃんと自分のやり取りは完了しているのか」と電話で問い合わせを行う人もいます。

そうしたやりとりが続くと、利用者は「このサービスは利用者を不安にさせる、信用できないサービスだ」というネガティブな印象を抱くでしょうし、大切な顧客を逃してしまうきっかけにもなりかねません。

メールは当たり前のように届くものであると無意識に感じている人が多い中、「メールが届かなかった」ということがあれば企業のブランドイメージを損なう大きなリスクになるのです。



メール配信の課題

顧客とのコミュニケーションにおいて非常に重要な役割を果たしていますが、意外にも「届ける」ことが難しいメール。誰もが当たり前が届くものだと思っているからこそ、届かないことの負のインパクトは大きいのです。

ここでは、メール配信にまつわる課題について深掘りします。

2. メール配信の課題 -メール送信がしづらい環境



インターネット上におけるメールの送受信には、SMTP（Simple Mail Transfer Protocol）が使われています。このSMTPは非常にシンプルで、誰でも自由にメールを送信できる特徴がありますが、それを逆手に取って広まったのが迷惑メールです。宣伝や詐欺などを目的として、無差別かつ大量に送信される迷惑メールは、インターネット社会において大きな問題であり、これまでさまざまな対策が講じられてきました。

ホスティング事業者やIaaSベンダー、ISPなどは、自社の環境やネットワーク内からスパマーが迷惑メールを送信できないように、SMTPの利用やメール送信に制限をかけている場合が多いです。そのため、メルマガなどの大量送信やシステムからの自動送信といった、個人のメール利用とは異なる方法でのメール送信はなかなかしづらい状況になっています。

例えば、以下のような対策が取り入れられているため、システムなどから大量にメールを送信する際には考慮する必要があります。

OP25B（Outbound Port 25 Blocking）

OP25Bは、外部ネットワークのSMTPサーバ（25番ポート）への接続をブロックする技術のことです。

OP25Bが実施されている環境では、25番ポートを利用したSMTPでのメール送信がすべて遮断されるため、サブミッションポートを利用したSMTP-AUTHでの送信など、メール送信に何か他の手段を利用する必要があります。

IPスロットリング

一定時間内に送信できるメール量を制限し、超えた場合には一時的に受け入れを拒否する仕組みです。通常のメール送信であれば短時間に数百通といったメールを一斉に送信する事態は考えにくいいため、スパマーによる迷惑行為であると判定されてしまうのです。IPスロットリングが発生すると、一時的にすべて受信を拒否されるため、メール到達率が著しく低下します。



こうした対策が実施されている環境からメールを送信する場合には、大量メール送信に特化したメールリレーサービスを利用するのが効果的です。

2. メール配信の課題 - 「メールが届かない」というトラブル



「メールが届かない」ことは意外と起きうる、と説明しましたが、具体的にメールが届かないとはどのような状態を指すのでしょうか。まず、エラーメール（バウンスメール）が返ってくるか／こないかという点で大きく分けられます。送信後にバウンスが返ってくる場合は、さらに「ソフトバウンス」と「ハードバウンス」に分けられます。バウンスメールにはエラーとなった理由（エラーコード）が記載されているため、それを確認すれば大抵の場合はメールが届かなかった原因を把握することができます。しかし、バウンスメールが返ってこないにも関わらず、実際には相手のメールボックスにメールが届いていないという場合もあります。バウンスメールが返ってこない＝相手のメールサーバまで無事到着したということなのですが、この場合はメールサーバまでは届いたものの、実はそこから個人のメールボックスに配送がされなかったということです。

① エラーメールが返ってくる

ソフトバウンス（一時的な問題によるエラー）

- メールサイズが大きすぎる
- 受信側のメールボックスに空きがない
- 受信側のメールサーバに障害が発生している
- 大量送信などが原因で一時的に拒否されている

ハードバウンス（恒久的な問題によるエラー）

- メールアドレスが存在しない
- SMTPのコマンドや文法・パラメータに間違いがある
- 大量送信などが原因で、受信側のメールサーバに拒否された
- 迷惑メールと判断され、受信側のメールサーバに拒否された

② エラーメールが返ってこないが、宛先にメールが届いていない

- メールアドレスの綴りを間違え、存在する別の宛先に送信してしまった。
- メールサーバの障害などでメールの送受信が遅延している。
- 送信相手が利用しているメールサービスの迷惑メールフィルターや迷惑メールブロック設定によって、「迷惑メール」として振り分けられてしまった。
- 送信相手がバウンスメールを返さない受信拒否の設定をしている。



このように、「メールが届かない」と一口に言ってもさまざまな状況や原因が考えられ、ノウハウがなければ対処するのは難しく、手間がかかります。

2. メール配信の課題 -メールが届かない理由① 送り方



「メールが届かない」理由にはさまざまな要因が考えられますが、ここでは一般的によく見られる原因をいくつか紹介します。

メールの送り方の問題

原因

原因1：同じIPからの大量配信

同じIPから大量配信するとスパマーだと誤解される原因になります。特にIPレピュテーションの低いIPアドレスから突然大量に送信するとブロックされる可能性が高いです。

原因2：「なりすまし」になっている

「From」（差出人）に実際の送信者と異なるアドレスを設定すると「なりすましメール」を送信するスパマーとしてブロックされる可能性が高いです。

原因3：配信リストの問題

スパマーはさまざまな方法でメールアドレスを入手しているため、アドレスが存在せずエラーになってしまうものも少なくありません。エラー率が高いとスパマーだと判定され、ブラックリストに登録されるリスクも高まります。

対策

対策1：大量配信

時間をかけて小分けにメールを送信したり、少しずつメールの送信数を増やすことでIPレピュテーションを高めたりすることが必要です。大量配信に対応したメールリレーサービスの利用も効果的でしょう。

対策2：「なりすまし」

許可なく他のドメインや送信者をFromに設定してメールを送信するようなことは行わないようにしましょう。SPFやDKIMといった送信ドメイン認証の導入も重要です。

対策3：配信リスト

メールの配信リストを購入したりせず、希望する人にだけメールを送りましょう。存在しない宛先は削除するなど、定期的な配信リストの精査が重要です。

2. メール配信の課題 -メールが届かない理由② 送信環境



メールの送信環境の問題

原因

原因1：ブラックリストに登録されている

送信元のIPアドレスやドメインがブラックリストに登録されてしまうと、ISPやメールプロバイダからブロックされる確率が著しく上がります。

原因2：IPのレピュテーションが低い

新しいIPアドレスや、今までメール送信に利用されていなかったIPアドレス、過去にスパマーが利用したIPアドレスなど、レピュテーションの低いIPアドレスから大量にメールを送信すると、受信を拒否される確率が高くなります。

原因3：DNSの設定の問題

メールの送受信とDNSは密接に関係しています。送信ドメイン認証もDNSを利用する仕組みですが、それ以外にも受信側メールサーバは名前解決の仕組みを応用したセキュリティチェックを実施しており、必要な情報がないとスパム判定される原因となります。

対策

対策1：ブラックリスト

ブラックリストに載る原因としては、①大量のメール送信、②無効なアドレスに何度も送信する、③スパムトラップにメールを送信する、などが挙げられます。ブラックリストに登録されていないかこまめに確認するようにしましょう。

対策2：IPレピュテーション

senderscore.orgなどIPレピュテーションをチェックできるWebサービスで自社のIPアドレスに問題ないか確認しましょう。メールリレーサービスを利用するのも効果的です。

対策3：DNS設定

エンベロープFrom・ヘッダFromのドメインのAレコードとMXレコードを設定する、送信元SMTPサーバのIPアドレスの逆引き（PTRレコード）を設定する、送信元SMTPサーバのホスト名のAレコードを設定する、などが必要です。その他SPFなど送信ドメイン認証にも対応すべきでしょう。

2. メール配信の課題 -メールが届かない理由③ 内容



メールの内容の問題

原因

原因1：購読解除の仕組みがない

受信者がメルマガを不要だと感じた際にオプトアウト（購読解除）できる仕組みがメール内に記載されていないと、受信者が「迷惑メールとして報告」するリスクが高まります。

原因2：怪しいURLを貼っている

短縮URLや、アフィリエイトURL、安全でないWebサイトへ誘導するURLを記載していると、迷惑メールと判定されてしまう原因となります。

原因3：スパムと判断されるキーワードを使っている

迷惑メールでよく使われるアダルトや儲け話などに関するキーワードや煽り文句、飾り罫線や装飾などを過剰に使用していると、スパムだと判定される可能性が高まります。

対策

対策1：購読解除

配信するメールの中に必ずオプトアウトの方法・受信拒否の意思を伝える連絡先を明記しましょう。ワンクリックで購読解除できるURLを設置するのが望ましいでしょう。

対策2：URL

フィッシングサイトなど安全ではないWebサイトのURLを貼ると高確率で迷惑メールと判断されてしまいます。Googleのセーフブラウジングで危険なドメインとして登録されていないかは、安全性を測る上で参考になるでしょう。

<https://transparencyreport.google.com/safe-browsing/search>

対策3：キーワード

例えば「あっという間に儲かる」「すぐにキャンペーンに申し込もう」といった表現が挙げられます。煽り文句は迷惑メールのパターンとしてよく使われているので、利用は可能な限り抑えるようにしましょう。

2. メール配信の課題 -メールサーバの運用負荷



これまで見てきた通り、スパムが氾濫し、携帯キャリア・ISP・メールプロバイダなどによる迷惑メール対策が発達した現在においてはシステムからメールを大量に送信するようなことは非常に難しくなっています。

そんな中、もし自社で構築したメールサーバやシステムからメールを送信しようとする場合は、相応の運用業務が発生します。

メールサーバの監視運用

自社でメールサーバを持つ場合、一般的なサーバに対する監視運用業務が必要です。死活監視だけでなく、サーバリソースの使用状況、ログの保管・監視なども重要です。メールの送信量にムラがある場合は、MAXに必要とされるスペック・台数を確保する必要があり、サーバコスト自体も嵩んでしまう可能性があります。

メールサーバのセキュリティ対策

サーバの運用には、セキュリティ対策も欠かせません。基本的なサーバのセキュリティ対策としてのソフトウェアアップデートの対応や、アクセス制御、マルウェアや不正侵入からの防御などが挙げられます。また、SMTPは暗号化の仕組みがなく平文で送信されてしまうため、昨今ではSTARTTLSというメール送信を暗号化する仕組みが普及しています。

IPのレピュテーション管理

送信元IPアドレスのレピュテーションを自社で管理する必要があります。まず新しいIPを利用する場合は、時間をかけてIPウォームアップを行いレピュテーションスコアを上げます。その後もエラーメールを減らしたり、スパムと疑われるような行為をしないようにしたり、もしIPがブラックリストに登録された場合は解除申請を行うなどの手間が発生します。

バウンス管理・対応



送信したメールが何らかの理由で宛先に届かないと、バウンス（エラーメール）が予め設定された「Return-Path」宛に届きます。Return-Pathが正しくメールを受け取れる状態になっていないと、メールの到達率にも悪影響を及ぼします。前述した通りエラー率が高いことは更なる到達率の悪化にもつながりかねないため、バウンスメールの確認と対応が必要です。



メールの送信については、メール送信に特化したサービスを利用することで運用負荷を軽減できる可能性があります。

2. メール配信の課題 -メールリレーサービスで解決

これらの課題は、「メールリレーサービス」の利用によって解決することができます。

	 課題	 メールリレーサービス
メール送信が しづらい環境	<ul style="list-style-type: none">• OP25BによるSMTPでの送信に対する制限• IPスロットリングによる大量送信の制限	<ul style="list-style-type: none">• SMTP（25番ポート）以外での接続も可能• OP25Bを回避して配信可能• IPスロットリングを回避して大量配信が可能
「メールが届かない」 とうトラブル	<ul style="list-style-type: none">• メールが届かない状況／原因の多様さ、複雑さ• メールが届かない原因調査の難しさ• 受信側の迷惑メール対策の不透明さ• メール送信に関するナレッジ・ノウハウ不足	<ul style="list-style-type: none">• 到達率を向上• ログ（配信結果）を簡単に確認可能• メール送信に関するナレッジ・ノウハウの提供
メールサーバ の運用負荷	<ul style="list-style-type: none">• メールサーバの運用負荷• メールサーバのセキュリティ対策• IPレピュテーション管理の手間• バウンスの管理、対応の手間	<ul style="list-style-type: none">• 送信メールサーバのリソースを気にする必要なし• 万全のセキュリティ対策• IPレピュテーション管理不要• ログを確認せずとも、管理画面から誰でも配信結果を確認可能

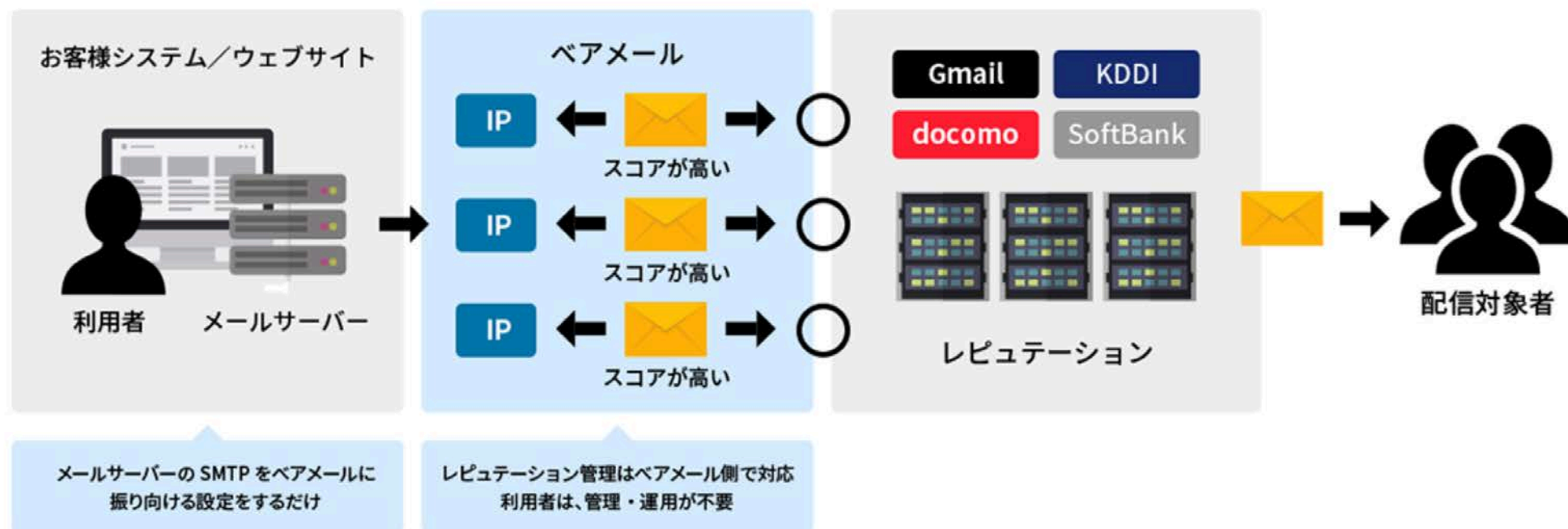
メールリレーの基礎知識

メール配信にまつわる、「メールが送信しづらい環境」「メールサーバの運用負荷」「送信したメールが届かない」といった課題の解決には、「メールリレーサービス」の利用が効果的です。
ここではメールリレーサービスの仕組みやメリットについて解説します。

3. メールリレーの基礎知識 -メールリレーとは

メールリレーサービスとは、メールを高速に・確実に配信するためのサービスのことです。
一般的に「メール配信」という時に思い浮かべるようなHTMLメールの作成機能ではなく、メールを送ることに特化しています。
ユーザーのシステムからメールリレーサービスへ「リレー」するだけで簡単に利用できます。

処理能力の高い送信サーバ群と複数のIPアドレスから送信するため、遅延も起こりにくく、大量メールの一括送信にも対応しています。
各携帯キャリア・ISP・メールプロバイダからの信頼（レピュテーション）を得ている送信サーバを利用することで、迷惑メールに振り分けられる事なく、到達率を改善することができるのです。



3. メールリレーの基礎知識 -メールリレーのメリット



メールリレーサービスを利用することには、以下のようなメリットがあります。

メールの到達率を高められる

メールリレーサービスの提供元は、送信サーバの信頼性（IPレピュテーション）を高く維持してサービスを運用しています。そのため、受信側の携帯キャリアやメールプロバイダからの信頼を得られているため、届きにくかったメールが届きやすくなるのです。

メール配信の運用リソースを削減できる

メールリレーサービスを利用することで、運用リソースを削減できます。自社でメール配信を行う場合は、メールサーバの運用やIPレピュテーションの運用も含めて自分たちだけで行わなければなりません。特にメールが届かない場合、複合的な理由が考えられるため、知識がないと原因を突き止めることも難しく、自力で解決するには骨が折れます。メールリレーサービスを利用すれば、このような問題に自社で対応する必要がなくなります。

安全性を高められる

メールリレーサービスは、セキュリティが高いのも特長です。有効なセキュリティ対策として、SMTPリレー接続時の認証、通信を暗号化するSTARTTLSなどがありますが、これらに対応しているメールリレーサービスを利用することで安全にメールを送信することができます。また、メールリレーサービスはメールを「リレー」するだけなので、配信先の氏名やメールタイトル・メール本文などは一切残らないというのも安心できるポイントだと言えるでしょう。

メール配信後の分析ができる

メールリレーサービスには、配信結果をリアルタイムに取得し、分析ができるものもあります。リアルタイムに取得した結果を確認できれば、万が一エラーが起きてしまい、顧客から問い合わせがあったとしても迅速な対応をすることができます。分析機能を搭載したサービスを利用すれば、到達率やエラー率・エラーの傾向などを把握できるため、その後のメール配信の改善に利用することもできます。

3. メールリレーの基礎知識 -メールリレーの使い方

メールリレーサービスは、今のシステムから「リレー」するだけで簡単に利用可能です。
例としてベアメールの場合は、トライアルを申し込みいただいてから以下の3STEPですぐに利用可能です。

1 DNS設定（SPFレコードの追加）

まず、メールリレーサービス指定のSPFレコードをDNSに設定します。
これは「このドメインはメールリレーサービス（自社システム外のサーバ）からメールを送信することがある」ということを宣言することで、なりすましメールなどのスパムだと判定されることを防ぐためです。

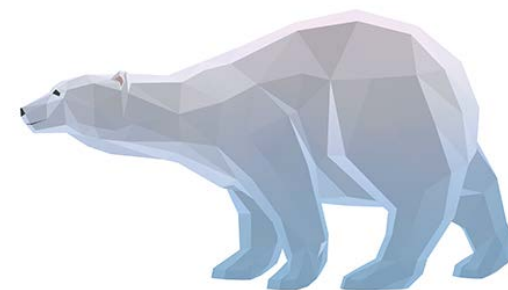
2 メールリレーサービスへの接続テスト

次にお客様のシステムからメールリレーサービスへの接続をテストします。
ベアメールの場合は、以下の方法から選択できます。

- ① 送信元IPで認証するSMTP
- ② ユーザID／パスワードで認証するSMTP-AUTH
- ③ WebAPI

3 メールリレーサービスへの切り替え

問題なく接続できることが確認できたら、実際にシステムからのメール送信を切り替えます。











メールリレーの選び方

ここではメールリレーサービスの種類と、選ぶ際のポイントについて解説します。

4. メールリレーの種類 -共有型と専有型

メールリレーには大きく分けて**共有型**と**専有型**の2種類あります。

共有型と専有型を価格や他者の影響、レピュテーション管理から比較すると以下ようになります。

	共有型	専有型
価格	 サーバを共有しているため、専有型と比べて価格を抑えてメールリレーを利用できます。	 サーバを丸ごと専有するため、共有型と比べて価格が高くなります。
他者の配信の影響	 他者の配信の影響を受ける可能性があります。サービス提供者が監視しているので、大きな影響はありません。	 自社でサーバを専有しているので、他者の影響を受けずにメール配信を行うことができます。
他者のスパム判定の影響	 他者のスパム判定の影響を受ける可能性があります。サービス提供者が監視しているので、影響は抑えられます。	 他者が介在しないため、他者のスパム判定の影響を受けません。
レピュテーション管理	 メール配信に利用するIPアドレスのレピュテーション管理をサービス提供者に任せることができます。	 IPアドレスのレピュテーション管理を自社で行う必要があります。

メールリレーサービスの中には、サーバは共有しつつ専用のIPアドレスを利用できるというタイプのものもあります。

サーバを専有するタイプより価格は抑えられますが、IPアドレスのウォームアップやレピュテーション管理は自社で行う必要があります。特別な理由がない限り、IPアドレスのレピュテーション管理を意識せずに利用できる**共有型**のメールリレーがオススメです。

4. メールリレーの選び方 -選ぶときのポイント



メールリレーサービスはさまざまな企業が提供しています。ここでは、選ぶ際にチェックすべきポイントを解説します。

自社に合ったサービスか？

メール配信の方法、それに応じた機能や価格、システムとの連携方法などが自社に合っているか確認しましょう。

例えば、既にメールを作成する仕組みやインターフェースがある場合は、既存のシステムは変更せず、リレーするだけで利用できるシンプルなメールリレーサービスがおすすめです。その場合、既存のシステムとの連携はSMTPを利用するのか、あるいはAPI連携を利用するのかなど確認しましょう。特にメールを作成して配信するシステムがない場合は、独立して利用できるメール配信サービスの方が使いやすいかもしれません。

サービスの信頼性は高いか？

サービスの信頼性・可用性が高いかどうか確認しましょう。

障害が起きないようにシステムの基盤が冗長化され、24時間体制で有人監視しているサービスなら、トラブルが起きにくく万が一の際にも安心でしょう。また、サービスによっては、メンテナンスで定期的に利用できなくなる時間帯がある場合もあります。そのようなことがあるか、その場合どの程度止まるのか、止まっても自社の運用上問題ないかなども確認しておくべきでしょう。

セキュリティは問題ないか？

また、メールリレーサービスはSaaSの場合が多いため、導入時に自社のセキュリティポリシーを満たしているかという点も重要になるでしょう。例えば、海外のサービスを利用する場合、メール送信サーバが海外にあるという場合があります。自社のセキュリティポリシー上、サーバが国内にある必要がある場合は、その部分の確認も必要でしょう。また、海外にサーバがある場合は、日本国内の携帯キャリアに対するメールが届きにくい場合があるため、合わせて注意が必要です。

サポート体制は万全か？

残念ながらメール配信には予期せぬトラブルがつき物です。そのため、いざというときのサポート体制も重要でしょう。メール・電話などで相談できる環境があれば、トラブルに迅速に対処できますし、エラーが発生してしまった時にもメール配信のノウハウを持っているサポートチームがいればより安心です。可能であれば導入事例、トラブル対応事例なども参考にしましょう。導入コストのみで決めるのは、運用コストが割高になる可能性があるので危険です。

4. メールリレーの選び方 -選ぶときのポイント【ベアメールの場合】



各チェックポイントについて、メールリレーサービス【ベアメール】では以下の通りです。

機能・連携方法・価格について

ベアメールは、メールリレーに特化したシンプルなサービスです。
管理画面から配信結果（ログ）の確認、ダウンロードなどが行えます。
お客さまのご利用インフラはAWS・Azure・国内クラウド・その他オンプレミスなどどこからでもご利用可能です。お客さまシステムからの連携方法としては、① 送信元IPで認証するSMTP、② ユーザID／パスワードで認証するSMTP-AUTH、③ WebAPI からお選びいただけます。
価格は5,000円から、1ヶ月に配信する通数に応じたプランからお選びいただけます。

サービスの信頼性について

システム基盤は冗長化しており、自社でインフラ含め管理しています。
共有型のため、他者の配信の影響を受ける可能性は0ではありませんが、ベアメールは本利用開始前に必ずトライアル利用をお願いしており、契約前にメール送信の正常性を確認しています。トライアル期間中に、正しく接続できるか、設定は問題ないか、配信量はどの程度か、エラー率はどの程度か、など確認した上で契約いただくことで、すべてのお客さまが安心してご利用いただける環境を維持しています。

セキュリティについて

セキュリティに関しては、ISO27000（ISMS）認証を取得し、それに沿った運用でサービスを提供しています。
また、サービス基盤は国内データセンターにあるため、セキュリティポリシー上サーバが国内にある必要がある場合にも問題ありません。

サポート体制について

ベアメールの使い方やメールログの見方などについてサポートする担当と、配信基盤の正常性を監視するインフラ担当とに分かれており、インフラ担当については24時間365日稼働しております。
もしベアメールを利用しても届かないメールがあるといった場合にも、今までのナレッジを活かし、できる限り調査・解決のお手伝いをいたします。

1. メールの到達率を改善

独自の配信技術でキャリアやISPからのブロックを回避しながら高速配信でメールを届けます。配信後、エラーメールをいち早く把握できますので、メールの到達率の改善をすることができます。



2. コストの削減

ベアメールは、「共有型」のメリットを活かして、専有型のサービスと比べてお使いいただきやすい料金体系でサービスを提供しています。また、運用を意識することなく利用ができるため、見えない人的コストの削減にもつながります。



3. メールサーバ運用の リソース削減

メールサーバの管理・運用の必要がなく、また、レピュテーション管理もすべてベアメール側で行うため、これまでメールサーバの運用にかかっていたリソース及び人的コストの削減ができます。



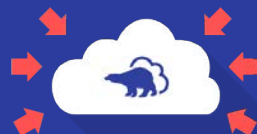
5. ベアメールのご紹介 -特長



高いメール到達率を実現するベアメールのご紹介です。

01. 配信先をベアメールに振り向けるだけでメールが届く

専有型の場合、IPレピュテーションを自社で運用・管理をしなければなりません。ベアメールは「共有型」で提供しているため、レピュテーション管理は不要です。お客さまの利用インフラがどこでも、配信先をベアメールに振り向けるだけで、煩わしい運用を意識することなくサービスを利用できます。



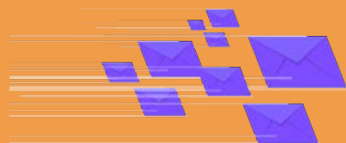
02. 配信結果は管理画面からすぐに確認可能

ベアメールは、配信後30分以内に配信結果のログを確認できる仕組みを提供しています。メールサーバのログを確認することなく、管理画面から誰でも簡単に配信結果を確認できます。万が一顧客から「メールが届かない」と問い合わせがあった場合にも、エラーの有無やその原因についてすぐに確認できるため、迅速に再配信などの対応が可能になります。



03. 1時間あたり500万通の高速配信

ベアメールでは、1度に大量のメールを配信したいといったニーズにも対応しています。1時間あたり500万通の高速配信ができますので、ユーザ向けのメルマガ配信などにも対応が可能です。



04. こまやかな導入・運用サポート

ベアメールは本利用開始前にならずにトライアル利用をお願いしています。トライアル期間中に、正しく接続ができるか、設定は問題ないか、エラー率はどの程度か、など確認いただくことで安心してご利用頂いております。お客さまの用途や環境に合わせて、今までのナレッジを生かしたこまやかなサポートを提供します。



5. ベアメールのご紹介 -導入事例・問い合わせ先



サービス詳細URL

<https://baremail.jp/>



【運営会社】

社名	株式会社リンク
所在地	東京都港区北青山 2-14-4 アーガイル青山 14F
設立	1987年11月
資本金	10,000,000円

【導入事例】

ベアメールはEC事業者をはじめ、金融機関、自治体・官公庁まで業種・業界問わず多くのお客さまにご利用いただいています。



パーソル プロセス&テクノロジー



【お問い合わせ先】

平日10:00～17:00まで。Webフォーム・メール・電話での受付対応。

- メールアドレス：baremail@link.co.jp
- 電話番号：03-4540-6500